

# 新型コロナウイルスに対する保護者説明会に寄せられた 質疑応答

主催者：厚生労働省  
藤田医科大学  
愛知県  
岡崎市保健所  
岡崎市教育委員会

日 時：令和2年2月21日（金）19時00分

場 所：岡崎市立岡崎小学校屋内運動場

参加者：290人

Q 1 : 感染ルートとして、飛沫感染と接触感染の2つと言われたが、中国ではエアロゾル感染の可能性について報道されていた。ある感染症マニュアルには「空気感染もあり得る」と書いてあったが、空気感染の可能性はないと言えるか。

A 1 : 空気感染の可能性はないと考えています。

Q 2 : 新型ということは分からないことが多いはずだが、なぜ空気感染がないと言えるのか。

A 2 : 確かにこのウイルスは新しいウイルスで、分からないこともたくさんあります。ですから、類似のウイルスをコロナウイルスに当てはめて考えています。そのような情報を総合すると飛沫感染と接触感染という結論になります。空気感染の可能性はゼロとは言えませんが、限りなくゼロに近いと考えています。特に、藤田医科大学岡崎医療センターと岡崎小学校の間の遠距離をまたいで感染することはないと考えています。

Q 3 : 2月16日に藤田医科大に受入れの要請をして、2月17日に承諾の返事があり、2月18日には乗客を受入れたとのことだが、当時、クルーズ船には1,000人以上の人が乗船していたはずである。そんなに早く対応する必要があったのか。

A 3 : 現在クルーズ船の中は危機的状況です。この状況を1日も早く収束させたい、そのためには1日も早い受入れが必要でした。

Q 4 : 藤田医科大は厚生労働省の要請を受けて、受入れを即答したように感じるが。

A 4 : 即答したわけではありません。クルーズ船の状況などを関係者で協議し、対応について検討して結論を出しました。

Q 5 : 権力者が、藤田医科大学が受入れるように圧力をかけたのではないのか？もしくは、藤田医科大学が受入れにあたって忖度をしたのではないのか。

A 5 : 圧力をかけられての承諾ではありません。また、忖度もしておりません。

Q 6 : 職員等の院内感染対策はどのようにしているのか。

A 6 : 岡崎医療センターに勤務する職員数を通常より少なくしています。さらに、4階以上の感染者のいるフロアに立ち入る職員数はもっと少なくしています。感染者の区画に立入る職員はガウン、マスク、手袋で防護し、感染者のいないフロアに移動するときは必ず着替えをするようにしています。また、勤務の終わった後はどこかに立寄ることのないよう自宅へ直帰するよう指導しています。さらに、職員の食事は院内で準備し提供することで、できるだけ外に出ないように配慮しています。

Q 7 : 直帰するよう指導しているというが、休日等プライベートまで管理できるのか。

A 7 : 職員のプライベートでの行動すべてを制限することはできませんが、必要最小限で済ませるよう指導しています。

Q 8 : 感染者は外出しないと思うが、病院内で感染した者が外へ出ないような管理をしてほしい。

A 8 : その点については責任を持って対処させていただきます。

Q 9 : 院内感染が発生した場合、その感染ルートなどについて公表するのか。

A 9 : 院内感染が発生した場合、その事実等について公表することは必須であり、信頼関係の礎であると考えています。

Q10 : 感染者が外出することはないとの説明があったが、もし外出しようとした際にはどのような措置をとるのか。

A10 : 感染者のいるフロアはセキュリティロックをかけており、4階から下のフロアに行くためには職員が対応しないと鍵が開かない状態になっています。そのため感染者が区画から外に出ることはないと考えています。

Q11 : 現在コロナウイルスの検査はPCR検査のみであるが、インフルエンザのように迅速に検査する検査薬の開発目途はあるか。また、治療薬の開発目途はあるか。

A11 : 現在、簡易な検査法を開発しているメーカーはありますが、その性能を確認し、申請して認可され使用できるようになるまでに時間がかかります。PCR法の検査は検体数が限られていましたが、全国の衛生研究所や大学などが協力することにより対応する数が増加している状況です。治療薬については、コロナウイルスの増殖を抑える効果のある薬がいくつかあることが分かってきている状況です。臨床試験等を経て使用できるようになるまでに時間がかかりますが、厚生労働省がリーダーシップをとっており、近いうちに使用できるようになるのではと期待しています。

Q12 : 子どもたちが今回の受入れを「困っている人を助けたい」という気持ちから発生した、人として大切な行いと理解できるように指導してほしい。

A12 : 道徳の授業を利用して、子どもたちが人権などについて学ぶことができるよう各学校の校長に伝えていきます。また、児童生徒には自分で読んでわかるようなメッセージも配布したいと思っています。なお、岡崎小学校近隣の小中学校については教育委員会から直接校長に連絡をし、現状を伝えてまいります。

A13 : 子どもたちが悪口を言われるのは他校の子どもたちと一緒に塾でのごとが多く学校では相談できない。相談窓口などを教育委員会で設置する予定はあるか。

A13 : 岡崎市には Kids 岡崎こころの相談窓口があります。校長先生を通じて子どもたちに相談窓口について伝えます。子どもたちの不安な気持ちについては、学校の先生にいつでも相談していただいで大丈夫ですし、臨床心理士やスクールカウンセラーなども利用して対応していきます。 気候変動が激しくなった昨今、今回のような事態は今後も起こりうると考えます。子どもたちが将来適切に考えて行動できるように授業等を通して対応をしていきたいと思っています。

Q14 : 帰国者・接触者相談センターの案内には「風邪の症状や 37.5 度以上の発熱が 4 日以上続く方」などの記述があるが、子どもが発熱した場合、普段疑うのはまず風邪。冬季であればインフルエンザ。そして現在はコロナウイルスについても考える必要がある。子どもの発熱についてどのように対処したらよいか。

A14 : インフルエンザは最初から高熱が出るのに対し、コロナウイルスは、非常にゆっくり発生して徐々に熱が出てくるなどの特徴があります。そのため「4 日」という線が引かれています。この時期、発熱の原因としては風邪やインフルエンザの可能性が圧倒的に高いため、発熱した場合はまずかかりつけ医の診察を受け、普段と状況が違う場合は相談センターへご相談ください。

Q15 : 藤田医科大学岡崎医療センターでは、170 人の受入れを発表しているが、今後何人くらいがどのタイミングで来るのか。

A15 : 藤田医科大学岡崎医療センターでは感染者が発症した場合に早期発見し、安全に対処できる上限が 170 人と考えています。今後、どのタイミングで何人搬送されてくるのか情報はありませんが、170 人を上限として、そこまではウイルスが外に出ないように責任を持って感染者の対応ができるということです。

Q16 : 4 月の病院開院後も受入れを続けるのか。

A16 : 今回の受入れは一時的な措置です。藤田医科大学岡崎医療センターは救急とがんや手術治療を中心とした病院です。今回の感染者受入れは、クルーズ船の件が発生した時に病院の建物が完成しており、開院準備を進めていたことで対応できる医療スタッフがいるという要件が重なり、厚生労働省から依頼されたためです。4 月 1 日以降は受入れはありません。開院 2、3 週間前にはこの事態を収束させ、地域に貢献できる病院にしていきたいと思っています。

Q17：今回の感染者受入れを報道で知り、まず学校へ行かせて良いのか、学校は通常どおり授業を行うのか、不安になったが、学校からは全く連絡がなかった。教育委員会がいろいろ対応していたのは説明で分かったが、子どもの命をどう守っていくかを考えることが大切なのではないか。

A17：ご指摘、お気持ちをしっかり受止めて、不安が解消できるよう努めてまいります。

Q18：今後は同様のことが起きた場合、事前に学校関係者や保護者にしっかり説明することを約束してほしい。

A18：説明会が遅くなったこと及び皆さんの不安に寄り添うことができなかったことを心からお詫び申し上げます。今後は皆様にご理解いただけるよう、分かりやすくしっかりとした説明をすることをお約束します。

Q19：病院にはウイルス反応が陽性の人と陰性の人がいると思うが、両者の扱いの違いはどうなっているのか。また、陰性の人はどうのように退院していくのか。

A19：陰性反応で入院しているのはご夫婦で乗船していたなど、陽性反応の人と閉鎖された空間で長時間接触していた人です。基本的には陽性反応の人と同じ扱いをしています。検査のタイミングで感染していてもウイルス反応が陰性の場合もあり、感染の可能性が高い人は同じ生活をしていただいています。

Q20：もし何かあった場合誰が責任者でどのように責任を取るのか。

A20：現場責任者としては岡崎医療センター開設準備運営責任者であるが、現在当センターは医療機関としては機能していないため、藤田医科大学全体として責任をとるスタンスです。

Q21：感染者の搬送に正面玄関を使用しているが、安全区画はできているのか。西風が強いとウイルスが学校に飛散して感染しないか。

A21：正面玄関は感染者の搬送のみに利用し、職員は緊急外来玄関を使用しているので区画はできています。また、正面玄関は、後ろに建物があり風が通りにくい構造となっています。

Q22：子どもへの取材を控えるとともに撮影について配慮するように、マスコミに対して厚生労働省からも徹底してほしい。

A22：風評被害をできる限りなくしたい。マスコミへの対応も考えていきます。

Q23：もし、陽性者が出たら、休校や学級閉鎖を行うのか。

A23：インフルエンザと同じく、陽性者は出席停止となります。陽性者が多数となれば学校医と相談して学級閉鎖、学校閉鎖の措置をとることとなります。

Q24：教室が空いている南中学校など他の施設を使用した授業は考えているか。

A24：厚生労働省及び藤田医科大学の説明があったとおり、感染のリスクは極めて低いということであるので、現在のところは考えていません。

Q25：民間の検査機関を活用して、検査できる数を増やすことを要望する。

A25：既に民間の検査機関でも検査できるようにしています。

Q26：国の相談窓口はつながりにくいので改善してほしい。

A26：今後、必要性に応じて回線を増やすなど対応していきます。

Q27：風評被害が起こっている。岡崎小学校の子どもに対して、毎日声をかけてほしい。先生もケアしてほしい。

A27：教育委員会としても岡崎小学校の職員をこれまで以上に応援したいと考えています。岡崎小学校の教員から子どもたちに、これまで以上に声かけをしてもらえるようにします。

Q28：受入れ後、コロナウイルスについて岡崎小学校の子どもたちに話をしたのか。

A28：子どもを守る立場で子どもたちの活動の制約となることは避けたいと考えています。また、子どもたちには正しい正確な情報を伝えたいこと、子どもの不安感をあおらないことを考えて敢えて伝えませんでした。感染の防止策についてはインフルエンザと同様の対応をし、アルコール消毒、手洗い、うがいを徹底しています。コロナウイルスに対して特別なことはしていません。

Q29：藤田医科大学岡崎医療センターの責任者は、感染症の専門なのか。

A29：外科医であり、感染症の専門医ではないが、感染症には詳しい領域です。感染症の専門医を副統括としてチームに入ってもらっています。その他に、肺炎の専門医等もチームに入ってもらっています。

Q30：こどもの体調が悪い時、学校に行かせてよいのか悩む。どのような場合に登校を控えるべきか。

A30：徐々に熱が上がる、倦怠感がある、数日間そのような症状が続くなどのコロナウイルスの特徴がある場合は、医療機関に相談してほしい。

Q31：子どもを学校に行かせたくない。休校すべきではないか。

A31：厚生労働省及び藤田医科大学の説明があったとおり、感染のリスクは極めて低いということなので、現在のところは考えていません。

Q32 : 院内の換気はどのようなになっているのか。

A32 : 空調設備には特殊なフィルターがついており、ウイルスを除去する仕組みになっています。ウイルスを外部に排気するようなことはありません。また、空調は各階ごとに分離されており各階の空気が混ざり合うことはありません。

Q33 : 万が一の場合、国の補償制度はあるのか。

A33 : 国の政策の間違いということであれば、国家賠償という制度はあります。

Q34 : 院内での取り組み、起きていることをホームページで知らせてほしい。

A34 : 努力してまいります。